

令和5年3月1日

北西中学校保護者の皆様へ

甲府市立北西中学校
校長 廣瀬 正純

学校評価アンケート

昨年末に、本年度の学校経営の重点について生徒・保護者の皆様にアンケート調査をお願いしました。その結果がまとまりましたのでお伝えいたします。

◆アンケート方法と結果の処理

本校で今年度重点的に取り組んだ内容についてアンケートを実施しました。アンケートの選択肢は4段階として、肯定か否定のどちらかの答えを選んでいただき、課題がはっきりと示されるようにしました。「そう思う」「ややそう思う」の肯定率が90%を上回った項目は「良好」と判断して、80%を下回った項目は「確認・改善」として扱うこととしました。

相互比較表						
項目	教師	生徒				保護者 全体
		全体	1年	2年	3年	
設問 1 授業(基礎基本の定着・わかる授業)	100	100	100	99	100	86
設問 2 授業(主体的・対話的な学習)	95	89	88	88	93	
設問 3 家庭学習の習慣化	85	69	62	65	83	54
設問 4 いじめ防止	100	96	99	96	94	84
設問 5 望ましい人間関係の構築	100	99	99	99	100	93
設問 6 相談体制の構築	95	92	91	93	91	92
設問 7 道徳教育	95	93	93	93	94	85
設問 8 非認知能力の育成	100	96	96	95	96	83
設問 9 豊かな心を育てる活動(合唱・読書等)	95	98	97	96	100	89
設問 10 あいさつ	55	86	88	83	88	79
設問 11 防犯・防災・交通安全指導	95	98	96	98	100	93
設問 12 健康・体力の向上	95	91	96	89	87	89
設問 13 個に応じた合理的な配慮	75	95	99	93	93	76
設問 14 学校での感染症対策	100	99	99	99	99	95
設問 15 学校開放 (コロナのため開放せず)	100					
設問 16 学校経営方針	95					83
設問 17 教職員の連携・協調した実践と学校運営の満足度	85	99	100	98	99	85
※肯定的な回答の値(%)						

◆結果の分析

全体の概要

アンケート結果を達成率で相互比較表として示しました。肯定率が90%を上回った項目には良好として青の色掛けて示し、80%を下回った項目には確認や改善が必要として赤文字で示しました。その結果、青の色掛けが部分の割合が多く見られ概ね良好だと判断されます。

① 「あいさつ」について

挨拶については、教師の評価が一番厳しい結果でした。朝・帰りの【挨拶】をみると、学校全体ではそれなりにあいさつができていると思われませんが、しっかり挨拶ができる生徒とそうでない生徒のギャップが大きくあり、それにより教師による評価が低い結果となったと考えられます。

コロナ禍での長期にわたるマスク生活は、生徒の表情を覆い隠してしまい、大きな声を出さない限り【さわやかな挨拶】をしているかどうか判断できない現状があります。肯定意見が高い生徒の中にも【挨拶が不十分である】と考える生徒もおり、北西中の3大文化のひとつとして【挨拶】があり、生徒会選挙の公約でも取り上げられるほど高い意識があります。挨拶は人間関係をつくる土台となるものなので、今後も日常での取り組みや挨拶運動を通して生徒会活動を活性化させながら、生徒とともに継続して行っていきます。

② 「家庭学習の習慣化」について

生徒の「自発的」「継続的」な家庭学習の取り組みには、家庭との連携も重要であり、定期テストの学習計画表の作成と実践、家庭学習の充実を図るための課題の工夫、さらに自分にあった課題設定を行い、学習につながることを目指した自主学習ノートの取り組み等を引き続き行い、各家庭には見守る体制づくりを強くお願いしていきたく思います。さらに小学校段階からの家庭学習の定着に向けた連携もはかる必要があることから、小学校との情報交換も密に取り組みます。

新たな取組として一人一台端末を持ち帰ってのAI型ドリル教材の活用も取り入れていきます。

③ 「個に応じた合理的な配慮」について

生徒の多様化が進み、学校では、一人ひとりの教育的ニーズに対応していくことが求められています。引き続き、生徒や保護者の願いに寄り添い、理解を得ながら、支援を要する生徒に関する共通理解を図り、支援教育の校内体制の充実と生徒理解を深める教育相談の充実に、組織的に取り組んでいきます。また専門性を高めるための研修を取り入れ、個々の教育的ニーズに対応していくための教師の力量の向上に努めます。

◆アンケートの結果を受けて、2月24日、学校関係者評価会議を開催し、学校運営協議会の委員との意見交換を行いました。出された主な意見は次のとおりです。

- ・ 家庭学習について、学年が進むにつれ、肯定的な回答の値が増加している。小学校から、家庭学習の底上げを行っていけば、さらに肯定的な回答の値が増加すると思われる。そのため、家庭学習についての小中連携を深める必要があるのではないか。
- ・ 家庭学習に対する評価を時間やページ数ではなく、内容や満足度、本人がいかに納得しているか、という点で計っていけるとよい。
- ・ 学校としての部活動のとらえ方について、教職員でしっかり議論する必要がある。
- ・ 北西中の三大文化である「あいさつ」、「合唱」については、評価項目に取り入れられているが、掃除については、項目がない。来年度の評価項目に「掃除」を入れていく。
- ・ 地域に学校の情報を提供する際、「学校だより」だけではなく、「学年通信」もあわせて回覧をお願いする。地域に学校の様子を理解してもらうよい機会となる。
- ・ あいさつ活動をボランティアという形でできるように保護者、地域に働きかけていく。
- ・ 令和5年度の学校経営・スクールプランにある『〈重点目標〉粘り強く頑張り、仲間と協調できる生徒』について、これから生きる子どもたちにとって、ひじょうに重要な力であり、共感できる。来年度もぜひこの目標に向けて、学校・家庭・地域で連携していきたい。

◆今後さらに具体的な改善策や取り組みを検討し、来年度以降の学校経営に反映させていく予定です。ご協力をありがとうございました。